

2. 循環型農業コース

1) 基本情報

日程	令和6年10月19日～11月9日（21日間）
場所	長崎県、福岡県、東京都、埼玉県、神奈川県、山梨県
参加者	6名（ブラジル2名、パラグアイ2名、コロンビア1名、メキシコ1名）
内容	<ul style="list-style-type: none"> - 福岡生物産業開発研究所、九州アグロイノベーションエキスポ、日本フードエコロジーセンターなどを訪問し、サステナビリティをメインテーマに、日本の最新の農業技術、減農薬栽培、循環型農業の取組を学ぶ。 - 土壌改良技術、農産物の高付加価値化、6次産業化、地域づくり、スマート農業等について学び、日本国内の農業関係者と交流を深める。

2) 参加者

No.	性別・年代	国	組織	業務
1	男性 50代	ブラジル	バストス地域鶏卵生産者協会	農業技師
2	女性 50代	ブラジル	パラナ州農業技術普及公社	有機農業普及員
3	男性 50代	パラグアイ	イグアス農協	農業指導員
4	男性 30代	パラグアイ	ラパス農協	生産者（穀物）
5	女性 30代	コロンビア	Llanogrande 農場	生産者（コーヒー）
6	女性 50代	メキシコ	アカコヤグア江戸村協会	生産者（米、果物）

3) 日程

日数	日にち	曜	内容	場所
1	2024/10/19	土	中南米出発	
2	2024/10/20	日	機内	千葉
3	2024/10/21	月	日本到着	千葉
4	2024/10/22	火	オリエンテーション、福岡へ移動	福岡
5	2024/10/23	水	菌ちゃんふあーむ（自然農業）、福岡生物産業開発研究所（微生物資材）	長崎・福岡
6	2024/10/24	木	九州アグロイノベーション（農業展示会）	福岡
7	2024/10/25	金	マルヨシ醤油（農産物加工）、神奈川へ移動	神奈川
8	2024/10/26	土	休日	神奈川
9	2024/10/27	日	休日	神奈川
10	2024/10/28	月	いかす平塚農場（サステナブル農業）	神奈川
11	2024/10/29	火	小田原かなごてファーム（営農型太陽光発電）、農業資材店	神奈川
12	2024/10/30	水	パルサー（葉面肥料オルガミン）・EM研究機構（いずれもオンライン） 日本フードエコロジーセンター（食品リサイクル）	神奈川
13	2024/10/31	木	高根商事（中部エコテック有機廃棄物発酵機械 COMPO） ティー・エスファーム（日系ブラジル人ネギ生産企業）・ティー・エス学園	東京・埼玉
14	2024/11/1	金	アグリ王（植物工場アクアポニックス）、海外移住資料館（JICA横浜）	神奈川
15	2024/11/2	土	休日	神奈川
16	2024/11/3	日	休日	神奈川
17	2024/11/4	月	鈴木農園（うど・梨）、吉澤農園（トマト）、清水農園（米）	東京
18	2024/11/5	火	農林水産省成果報告会	東京
19	2024/11/6	水	AKITO コーヒー、北杜ファーム（野菜、オルガミン実践事例）	山梨
20	2024/11/7	木	成果報告（オンライン）・総括	東京
21	2024/11/8	金	日本出発	
22	2024/11/9	土	中南米帰着	



菌ちゃんファーム（自然農業）



福岡生物産業開発研究所（微生物資材）



九州アグロイノベーション



4) 実施概況

- 現在、中南米では持続的な農業への関心が高く、循環型農業というテーマの研修コースを設定した。九州アグロイノベーションという農業展示会の訪問（福岡県）を中心に研修日程を組み立て、菌ちゃんファーム（長崎県）という吉田俊道氏が提唱する微生物の力を借りる農法も視察した。さらに微生物資材の製造販売を行う福岡生物産業開発研究所は本コースにおけるハイライトのひとつとなり、放線菌の堆肥資材によって生ごみや牛糞の臭いがほとんどない堆肥の製造ができていることに、自国でぜひ実践したいという研修生の声が多かった。
- いかす平塚農場は有機JAS認証を取得しサステイナブル農業に取り組んでおり、レストランへの販売や農業収穫体験の提供も行っている。事業推進委員会の中塚委員（東京農業大学農学部助教）が緑肥による土壌改良の共同研究を進めている農場でもあるため、中塚委員にも農場に来てもらい、土の状態の確認しながら、よい土作りについての解説をしてもらった。一緒に昼食を取りながら意見交換を行うことで、いかす平塚農場からも貴重な機会となったとのコメントをもらい、中南米と日本の農業者（東京農業大学生も含む）の交流は相互にとって視野を広げる有益な情報交換となつた。
- 小田原かなごてファームの太陽光パネルの下で取り組む農業、日本フードエコロジーセンターでは食品残渣のリサイクルとバイオマス発電の取組を視察した。食品残渣のリサイクルは研修生からの要望に応える形で実現したもので、中南米にはない取組を見ることができ、印象深い視察となつたという声が聞かれた。高根商事は、中部エコテック社の有機廃棄物発酵機械COMPOの実践事例で、同じく有機廃棄物から堆肥を作る取組には関心が高い。
- アグリ王では通常の植物工場（屋内型の水耕栽培）の取組に加えて、アクアポニックスという水産養殖（魚）と水耕栽培（植物）を同じシステムで育てる新しい循環型農業の形を視察した。自国での実践に繋げるというよりは、農業の先端的なモデルを見ることで視野の拡大に繋げることができたと思われる。
- 東京都内での農業実践事例として、JA東京みどりの協力の下、東京都立川市・昭島市の農家を訪問した。鈴木農園では、うどという日本の伝統的野菜に加えて、梨の盛土式根圈制御栽培法という先進的な栽培方法を視察した。この栽培法は地面に遮根シートを敷き、その上に培土を盛って果樹を育成する技術で栽培され、土壤病害回避や早期多収化といった利点があるので、他の果樹にも応用できる可能性がある。吉澤農園では環境制御されたハウス栽培のトマト、清水農園は米の農場を訪問し、研修生の希望に応えることができた。
- 全体として、循環型農業というテーマは時勢に合致しており、日本における様々な取組を見ることができ、学ぶものが多い研修コースにできたと考えられる。

5) 参加者報告書（抜粋）

a. 有益であったこと

<p>①放線菌による有機物、畜糞の分解技術および梨の地面と接しない栽培方法（盛土式根圈制御栽培法）</p> 	<p>②中部エコテック：微生物の利用による土壤の生物環境、栄養品質の改善</p> 
<p>③肥料を独自製造し、循環型農業を目指す取組およびマカダミアナッツ収穫の機械（充電式バッテリーで自走可能）</p> 	<p>④福岡生物産業開発研究所の放線菌による植物性残渣や畜糞の発酵技術およびいかす平塚農場の環境配慮型農業</p> 
<p>⑤日本フードエコロジーセンターの飼料製造、有機残渣活用によるバイオガス製造</p> 	<p>⑥菌ちゃんファーム：肥料や農薬を使わず、菌の力で栽培を行う「菌ちゃん農法」</p> 

b. 帰国後のアクションプラン

- ①放線菌を選別し、養鶏場の鶏糞処理を目的としたテストをはじめる。
- ②より有効な微生物株を使用し、土壤の栄養的および生物学的品質の管理を実験的に行う。
- ③堆肥製造用に市販されている微生物株を購入し、さまざまな微生物が接種された有機ミネラル肥料の有効性試験プロトコルを作成する。
- ④地元の他の農業者に放線菌について話し、小規模な実験エリアを設け、堆肥製造のための放線菌の有用性を確かめるためのテストを実施する。
- ⑤土壤を改善するための堆肥化技術を導入する。農薬の使用を減らし、（コーヒーの）生産量と風味を高める。
- ⑥「菌ちゃん農法」を実演し、自分たちの土地で再現できるようにする。また、オーガニック栽培に関するトレーニング・研修を実施する。

(3)② 日系農業者等ウェビナー（オンライン）

中南米の日系農業者等を対象に以下のウェビナーをオンライン形式で行った。

No.	テーマ	日程	参加者	講師
1	日本食文化の継承	9月17日	77名	白石テルマ（シェフ、日本食親善大使）
2	女性部活動推進	11月13日	44名	各国女性部活動実践者 5名
3	ウルグアイ・アルゼンチン交流会	2月21日、22日	15名	メルコフロール花卉農協（アルゼンチン）

1. 日本食文化の継承

1) 基本情報

日程	令和6年9月17日（火）22:00-24:00（日本時間）
場所	サンパウロ宮城県人会・オンライン
講師	白石テルマ（レストラン藍染シェフ、日本食親善大使）
参加者	合計 77名（ブラジル 53名、アルゼンチン 2名、パラグアイ 4名、ボリビア 1名、ペルー5名、コロンビア 11名、メキシコ 1名）
内容	ブラジル・サンパウロ州に所在するレストラン「藍染」のシェフであり、日本食親善大使である白石テルマ氏を講師に迎え、日系コミュニティの方々と、日本の食文化を次の世代に引き継いでいくことの重要性について議論し、今後の取り組みや展望について考える。
言語	ポルトガル語・スペイン語同時通訳

2) 参加者

ブラジル(53)	サンパウロ婦人部連合会 ADESC(29)、バルジェングランデ文化体育協会(1)、ピンドラーマ農村組合(1)、文協レジストロ(1)、熊本県人会(2)、モジダスクルーゼス農村組合(1)、サンフランシスコバレー日伯協会(1)、ニッケイウェブ(1)、イタペチニンガ商工会(1)、パラナ語学学校(1)、テラオ養蜂場(1)、ASDETUR(1)、自営業者(1)、アマニビュッフェ(1)、アサイ文化協会連盟(1)、連邦区州教育省(1)、その他(8)
アルゼンチン(2)	アルゼンチン国立農牧技術院(1)、AgroArgentinaJapon 社(1)
パラグアイ(4)	アスンシオン日本人会婦人部(1)、アスンシオン商工会議所(1)、アスンシオン日本人会(1)、その他(1)
ボリビア(1)	在ボリビア大使館(1)
ペルー(5)	エスキベル農畜産物生産者協会(2)、ペルー日本カイゼン評議会(1)、イトウ寿司(1)、ペルー沖縄協会(1)
コロンビア(11)	コロンビア日系人協会(4)、アミグロアミグロミ(1)、Alejandria 農場(1)、Hda Belén(1)、Hikarien(1)、個人(1)、REN Colombia 社(1)、Ricaurte Tanaka e Hijos 社(1)、
メキシコ(1)	LAfectuosyta 社(1)



ウェビナーパンフレット



ウェビナーの様子



終了後の会場での集合写真



持ち寄りランチの様子

3) 実施概況

- 過年度本事業では、訪日研修の枠で女性活躍推進研修のコースがあり、中南米日系社会の日本人会や農協の女性部活動を支援していた経緯があるため、継続して支援及び活動促進をするためにサンパウロ婦人部連合会ADESCの要請を受けて、本ウェビナーを実施した。開催にあたっては日本食レストラン藍染のシェフであり、農林水産省から「日本食普及の親善大使」に任命されている白石テルマ氏に講師を依頼した。
- ウェビナーという位置付けではあるものの、サンパウロ婦人部連合会の女性はオンラインでのセミナー参加にためらいがあることや、対面での交流も重要であることから、会場とオンラインでのハイブリッド形式で実施した。さらに会場では、セミナー終了後に参加者・講師による「持ち寄り」という形で交流会が行われた。講演は40分とし、その後パネリストからのコメントを受けさらに質疑応答の時間を45分間取り、意見交換が活発に行われるような構成とした。
- 移住開始から100年以上が経過し、ブラジルの日系社会では世代交代や日本文化の希薄化も進み、日本文化や移住者の歴史を次世代へ継承するための取り組みの必要性が課題となっている。本ウェビナーでは日本食文化に焦点を当て、日本の食文化を次の世代に引き継いでいくことの重要性について議論し、今後の取り組みや展望について考えた。特に重要なキーワードは「もったいない」という言葉で、モノを無駄にするという意味合いを超えて、文化や知識が失われることももったいないことであるというアイデアを中心に議論が展開された。参加者からは有名シェフである講師の経験や価値観に多くの共感が示され、自分たちの歴史を振り返ると共に、食文化の保存にとって女性による活動が非常に重要であることを再認識する機会となった。

4) 参加者所感

- 日本食の中には、乾燥・発酵・漬け物・缶詰などの方法で食品を保存し、無駄なくすべてを使用することに重点を置く「もったいない」という概念があることを再確認させられるとても良い機会になりました。私たちの先祖が私たちに教えてくれたそれぞれの料理=「遺産」を今後も大切にしていきたいと思います。
- 私たちは自分たちの文化や習慣・料理を次世代のために保存しなければいけないということの重要性を再確認しました。私たちの祖先の歴史を忘れず、創造性を發揮し、新しい世代にモチベーションを与えるために私たちも頑張らなければいけないと思いました。
- 日系料理の重要性とそれを引き継いでいく重要性について考えるためのとても良いきっかけとなりました。
- 物や食材を無駄にするという意味だけではなく、文化を大切にしないことや知識を次世代に伝えないことも「もったいない」。それぞれの地域にある素材を日本食にアレンジして日系料理を作ることは間違いなく素晴らしいことであり、私たちが祖父母から受け継いできたものなのだと思います。
- セミナーで議論されたことは、個人的に非常に役に立ちました。自分が経験したことを見直すことなく、（日系人でありながら）自分が幼少期や青年期に経験したことと同じような経験をされている方々の話を聞くことができ、私自身についてより深く理解することができました。
- 講師所感：イベントの企画と運営は素晴らしいです。対面とオンラインでの対話を備えたハイブリッド形式で開催されることにより、より充実したセミナーになったと思います。多くの国の方々が参加されていたことにとても感動しましたし、日系人であるという共通点をきっかけに、みなさん的心に響くテーマについて議論することができとても嬉しかったです。私たちの先祖の歴史や価値観は非常に重要なものであり、彼らは私たちに貴重な教訓と遺産を残してくれました。日本の文化や日本料理について語れるこのような機会を与えていただき、とても感謝していますし、私たち自身の日系人としての歴史の記録を残していくことの重要性を改めて感じました。多くの日系団体の取り組みについても学ぶことができ、私がみなさんに何か教えるというよりは、私が多くのことを学ぶ場になりました。持ち寄りランチは、最高の締めくくりとなりました。レシピだけではなく、みなさんそれぞれのストーリーも共有していただき、とても豊かでおいしいランチになりました。皆様に心より感謝いたします。今回のセミナーは、貴重な思い出となりましたので、このような機会がもっと増えることを願っています。

2. 女性部活動推進

1) 基本情報

日程	令和6年11月13日（水）20:00-21:30（ブラジル時間）
場所	オンライン（Zoom）
発表者	各国女性部活動実践者 ①Miriam Shimada（ブラジル・サンパウロ婦人部連合会 ADESC） ②Yuuko Hara（ボリビア・サンフアン農協） ③Karina Yonekura（ボリビア・サンフアン日本人会） ④Carolina Miyata（コロンビア・コロンビア日系人協会） ⑤Satiko Shigueoka（ブラジル・アサイ日伯協会 LACA）

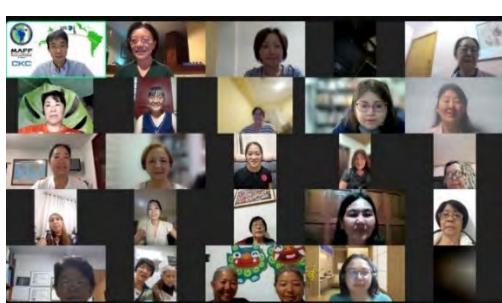
参加者	合計 44 名（ブラジル 25 名、アルゼンチン 1 名、ボリビア 2 名、ペルー 3 名、コロンビア 12 名、メキシコ 1 名）
内容	中南米各国で活躍している女性の取り組みを紹介し、お互いの経験を共有する交流を開催。今回は、グルテンフリー食品、手作り食品販売、着物パレード、女性部活動の 4 つのテーマで、それぞれの発表者の活動についてお話しいただき、質疑応答を挟み、意見交換を行った。
言語	ポルトガル語・スペイン語同時通訳

2) 参加者

ブラジル(25)	バイーア州日本ブラジル文化協会(1)、サンパウロ婦人部連合会 ADESC(11)、サルバドール日伯協会(1)、バストス文協日本語学校(1)、モジダスクルーゼス農業観光実業家協会(1)、バルジェングランデパウリスタ文協(1)、在伯長野県人会(1)、ミーナス州日伯文化協会(1)、日伯文化連盟(1)、ピンドラーマ農村組合(1)、アサイ日伯協会(1)、ラーモス果樹生産者地域連合(1)、その他(3)
アルゼンチン(1)	メルコフロール花卉生産者農協(1)
ボリビア(2)	サンファン農協(2)
ペルー(3)	エスキベル農畜産物生産者協会(3)
コロンビア(12)	コロンビア日系人協会(6)、若手起業家ネットワーク REN(1)、デルバイエ大学(1)、アミグルミ(1)、その他(3)
メキシコ(1)	アカコヤグア江戸村協会(1)



ウェビナーパンフレット



ウェビナー参加者



ウェビナーの様子

3) 実施概況

- 日本食文化の継承ウェビナーに続き、中南米の女性部活動にフォーカスしたウェビナーを開催。各國で活動している女性5名による活動紹介と意見交換会を行い、グルテンフリー食品・女性部活動（ブラジル）、手作り食品販売（ボリビア）、着物パレード（コロンビア）といった3か国の事例を紹介した。
- 中南米の日系人コミュニティにおいて、女性は日本文化を次世代へ継承するための重要な役割を担ってきた。家庭内で作られる日本料理をはじめ、生け花や日本舞踊、琴、習字、そろばんなどの教師としての活動や、婦人会という女性コミュニティのなかでの活動を通して、これまで日本文化の維持に大いに貢献してきた。異なる国に住みながらも、女性として日系コミュニティで活躍するという共通点を持つ参加者同士では、共通の状況・課題があり、互いの活動を知ることで相互の刺激・推進力となる。
- 対面式での国際交流には渡航や会場など多くの費用が必要となるが、スマートフォンが一般化している現在、インターネット環境さえあれば、こういったオンラインでの国際交流ができ、それによって生まれる共感・活動促進は非常に効果が高い。

4) 参加者所感

- 中南米の日系社会で行われている様々な活動と日本文化の普及の大切さについて学ぶことが出来ました。
- 女性たちの活動には、年齢関係なく、若者からお年寄りまで参加しているということにとても感心しました。また、ペルー、メキシコ、コロンビア、そして南米の他の国からウェビナーに参加していた女性たちに会えてとても嬉しかったです。日本食以外にも着物や浴衣のパレードで日本文化を普及させようとする試みにも関心を持ちました。
- 他の国の方々との交流を通して、どういう活動がなされているのかを知るためのとても良い機会でした。
- 私は何年か前に婦人会の会長メンバーとして、喜んで献身的に活動していました。このイベントは素晴らしいかったです。

- このような活動は、女性たち同士の交流と絆を深めるものとしてとても重要だと思いました。日本文化の発信に関するところでは、若者を惹きつける着物パレードはとても興味深かったです。
 - 女性たちのプレゼンテーションを通じて、中南米の起業家女性の取り組みについて学ぶことができ、刺激を受けました。
 - 私は、太鼓グループRaiki Daikiの最初のコーディネータとして活動しまして、子どもたち・若者たちに太鼓を教えることにもやりがいを感じていました。また、私は青空市場協会の会員でもあり、実際市場でもお好み焼きやコロッケ・餃子・肉まん・から揚げ・アイスクリーム・餅などを販売しております。ですので、今日の発表者のお話を聞いて、私自身の活動のためにも重要なヒントをいただいた感じがします。このウェビナーに参加できて、感謝しています。すでに次回のイベントを楽しみにしています。
 - 私は日系人ではありませんが、日本文化が大好きで、会館の活動にも参加しています。グルテンフリーの食品についての話もとても参考になりました、着物のファッショショーンのアイデアや、思いつかなかった事など、これから私の活動のなかでも活かしていくたいと思います。発表者たちが語り体験したことと共に感想します。いつか私も声明を発表できればと思っています。
 - 伝統的なレシピの作り方や文化活動に関するオンラインコース、そしておそらく私たちのコミュニティにも応用できる新しいものに挑戦している日本の人々の展示会なども開催してほしいと思っています。

3. ウルグアイ・アルゼンチン交流会

1) 基本情報

日程	①令和7年2月21日（金）6:00-8:30（日本時間） ②令和7年2月22日（土）6:00-8:00（日本時間）
場所	オンライン
講師	設定なし（双方向の情報交換）
参加者	合計16名 ①4名（ウルグアイ1名、アルゼンチン3名） ②12名（ウルグアイ5名、アルゼンチン7名）
内容	①ウルグアイ花卉生産者組合 Coflora、アルゼンチンメルコフロール花卉生産者組合 Mercoflor の花卉生産者同士での情報交換 ②ウルグアイ日本人会と、アルゼンチンのラプラタ日本人会・フロレンシオバレーラ日本人会での主に女性部活動に関する情報交換
言語	通訳なし（スペイン語会話）

2) 参加者

アルゼンチン(10)	メルコフロール花卉生産者組合(5)、ラプラタ日本人会(3)、フロレンシオバレーラ日本人会(2)
ウルグアイ(6)	ウルグアイ花卉生産者組合 Coflora(1)、ウルグアイ日本人会(5)
関係機関(1)	在ウルグアイ日本国大使館(1)



ウェビナーパンフレット



ウェビナーの様子

3) 実施概況

- 第2回日系農業者等連携強化会議には初めてウルグアイからの参加があり、本事業への参加を促すため、会議後に事務局がウルグアイを訪問し、ウルグアイ花卉生産者組合およびウルグアイ日本人会の情報収集を行った。ウルグアイの日系人は外務省の統計でも約460人（令和5年10月時点）と多くはないものの、花卉生産者が存在し、ウルグアイ花卉生産者組合の代表は日系人が務めている。隣国アルゼンチンにも花卉生産者組合が存在し、これまでに本事業にも多く参加していることから、ウルグアイとアルゼンチンの花卉生産者組合、日本人会（特に女性部）同士でのオンライン交流会を開催した。

- 交流会は花卉生産者同士の交流を2月21日、日本人会の女性部同士の交流を2月22日に開催し、参加人数はそこまで多くはなかったものの、聞きたいことをざくばらんに聞きやすい適度な人数であったと思われる。花の栽培や販売価格、イベント開催時の取り組み方など、類似の活動をしている者同士で実践的な情報交換に繋がった。その後も連絡が取れるように連絡先を交換したため、相互に訪問するなどの独自の交流に発展していくことを期待したい。

4) 参加者所感

- 素晴らしい交流の機会をいただきました。ウルグアイの花卉産業はエクアドルの安い輸入の花に押されて厳しい状況にあり、後継者もいない状況です。隣国のアルゼンチンとはまた状況が異なりますが、今回の交流をきっかけにぜひ訪問したいと思います。
- アルゼンチンの盆踊りは非常に有名で、どのような運営をしているのか気になっていました。同じようにボランティアでお金をを集めているということを聞いて、どこも同じようにやっているんだと知ることができました。祭りなどのイベントの際に会いに行ければと考えています。

(3)(③ 農業・食産業分野に係る専門家派遣による研修（中南米現地）／農業技術交流プログラム

今年度は農林水産省 輸出・国際局と協議の上、従来の日本人専門家派遣による研修ではなく、農業技術交流プログラムとして、専門的な農業分野の知見を有する日本企業を派遣することで、新たな農業技術の紹介に加えて、同企業の中南米でのビジネス展開の検討も兼ねた内容とした。

1) 基本情報

期間	令和7年1月24日～2月8日
場所	ブラジル
参加者	株式会社黄金の村（徳島県） 株式会社パルサー・インターナショナル（東京都）
内容	<ul style="list-style-type: none"> - 株式会社黄金の村 ゆずの生産に加えて、ゆず加工品の販売・輸出を行う企業（徳島県）。ブラジルでのゆず生産事業を構想し、果樹生産地や柑橘研究機関を訪問し、情報収集を行った。 - 株式会社パルサー・インターナショナル 天然アミノ酸葉面散布肥料オルガミンはブラジルで製造され、同社が日本に輸入し、日本の果樹生産者に販売している。ブラジルや中南米の日系農業者にオルガミンを紹介するため、製造元であるブラジルのパートナー企業と共に、果樹生産地を訪問した。

2) 日程

日数	日にち	曜	内容	場所
1	2025/1/24	金	日本出発	
2	2025/1/25	土	サンパウロ到着、ペトロリーナへ移動、経済開発局	ペトロリーナ
3	2025/1/26	日	タカクラ農場（マンゴー）、ミムラ農場（ぶどう） サンフランシスコバレー日伯協会（事業紹介）	ペトロリーナ／ ジュアゼイロ
4	2025/1/27	月	ブラジル農牧研究公社 Embrapa／オオツカ農場 フジヤマ農場（ぶどう、観葉植物）	ペトロリーナ／ ジュアゼイロ
5	2025/1/28	火	マスダ農場（ゆず、ピエダーデ） APPC農協（事業紹介）、モリオカ農場・オカムラ農場（ぶどう）	ピエダーデ ピラールドスル
6	2025/1/29	水	フルヤ農場（アテモヤ）、サイトウ農場（ぶどう）	ピラールドスル
7	2025/1/30	木	JETRO サンパウロ、JICA ブラジル、ダイソーブラジル	サンパウロ
8	2025/1/31	金	日系農業者等連携強化会議	サンパウロ
9	2025/2/1	土	現場観察（ピンドrama）	ピンドrama
10	2025/2/2	日	アララクアラへ移動	アララクアラ
11	2025/2/3	月	柑橘類保護基金 Fundecitrus、GBT 社（搾汁機械）	アララクアラ
12	2025/2/4	火	インテグラーダ農協、アサイ日伯協会	ロンドリーナ
13	2025/2/5	水	農業・信用協同組合 Sicoob、サンパウロへ移動	ロンドリーナ
14	2025/2/6	木	藍染（日本食レストラン）、サンパウロ出発	サンパウロ
15	2025/2/7	金	機内	
16	2025/2/8	土	日本帰着	



ペトロリーナ（ミムラ農園）

サンフランシスコバレー日伯協会

ピエダーデゆず生産者



ピラールドスル APPC 農協

連携強化会議でのプレゼン

連携強化会議での意見交換会

3) 実施概況

- 専門家派遣については、その派遣方法に関して農林水産省 輸出・国際局と協議を行い、農業栽培技術等の指導をするための専門家を派遣する方法から、今年度は中南米とのビジネス展開を検討している日本企業を派遣し、日系農業者に対して日本の農業技術を紹介すると共に、ビジネス創出に繋げることを目指した。新たな「農業技術交流プログラム」という形式での実施となり、株式会社黄金の村、株式会社パルサー・インターナショナルの2社が応募し、その2社が参加企業として決定した。
- 株式会社黄金の村は、ゆずの生産や、ゆず加工品の販売・輸出を行う企業。アメリカ・ヨーロッパでのゆず果汁需要の高まりを受けて、ブラジルでのゆず生産事業を計画。ブラジルの果樹生産地を訪問して日系農業者に対してゆず栽培の紹介をすると共に、柑橘の研究機関を訪問し、新規ビジネスを目指しネットワーキングおよび市場調査を行った。さらに第2回日系農業者等連携強化会議にて、自社の事業を中南米各国の日系農業者に対して発表した。
- 株式会社パルサー・インターナショナルは、日本の発酵技術によってブラジルで製造した天然アミノ酸葉面散布肥料オルガミンを、日本に輸入し販売を行う企業。オルガミンは日本国内の、特に果樹生産者に広く使用されているが、製造拠点であるブラジルの日系農業者の認知度はそれほど高くない。ブラジルの果樹生産地を訪問し、日系農業者に対して葉面散布肥料オルガミンを紹介して生産性向上と共に、ブラジル国内での販売網拡大を目指す。ブラジル側の提携パートナー（製造元）はトロピカルテクニカアグリコラ社。さらに第2回日系農業者等連携強化会議にて、自社の事業を中南米各国の日系農業者に対して発表した。
- 成果として、黄金の村はブラジルゆず栽培事業に商機を見出し、さらなる展開を目指して再度のブラジル訪問を計画している（2025年5月頃）。今後の課題として、柑橘グリーニング病という深刻な病気が蔓延している状況で新たな柑橘（ゆず）栽培には難しいタイミングであること、さらにゆずの苗をどうやってブラジルで入手するか（持ち込むか）といった点がある。今回の研究機関の訪問ではサンパウロ州の農業研究機関IACがゆずの品種を保有していることや、すでにゆずを小規模生産している農家がいることが明らかになった。さらに生産者の協力をどう得るか、搾汁施設はあるかといった点で、さらなる情報収集が必要となる。
- パルサー・インターナショナルが輸入販売するオルガミンは、現在多くの日本の果樹・野菜生産者に愛用されている。訪日研修の際にも、オルガミンを使用し生産性を向上させている生産者を訪問した。一方で、製造国であるブラジルで日系の生産者にオルガミンを紹介すると、40年前には使っていたという声も聞かれ、商品の認知はされていたものの供給網が途絶えていたところもあつた。今回の訪問によって、日系生産者からトロピカルテクニカアグリコラ社に対してサンプルの注文が多数あった他、1000L（約100万円）の発注もあった。

4) 参加企業所感

黄金の村

ブラジルでのゆず栽培の可能性を調査するため、3つの点をメインにリサーチを行った。

① 苗の問題

ある程度の規模で栽培を進めるにおいて（100ha以上を想定、現在木頭地区が60ha、那賀町全域が160ha）、正式な品種登録を行い苗を育て、植えなければならない。すでに5種のゆず苗がIAC（カンピナス農業研究所）にて検査され、そのうちの1つはすぐに登録ができるだろうとEmbrapa（ブラジル農牧研究公社）より説明を受けたが、確認が必要である。一般人が作った苗の検査を受け、問題がなければ登録可能だろうとの説明も受けたことができた。また、正式に穂木を日本より持ち込むためには時間がかかるとの説明も受けた。

② グリーニング病

オレンジベルト、特にサンパウロ西部での感染は地域によるが、Fundecitrus（柑橘類保護基金）の調べでは北部は感染率は低いが、中心部では80%近い感染地域もある。対策としては新たな栽培地においてキジラミ対策の模範園地などを公表し、カオリンなどのコーティング剤による防除を推進している。ゆずの栽培においては、柑橘の適地での栽培を推奨され、それによると南部のグリーニング病のない地域が良いと思われる。

③ 榨汁機械

オレンジの榨汁機械は基本的にゆずとは違い、ジュースと果皮オイル（コールドプレス）を取ることに重点を置いた機械となるために、ゆず榨汁には同じものは使えないと推測される。機械のモディファイは今のところ明確ではないが、我々が使用している能力の5倍以上のものが使われている。

結論

- 総論として、機械の問題以外はブラジルでのゆず栽培の可能性は非常に高く、今回の我々のプレゼンの後で栽培に手を挙げていただいた方や地域があった。また日本と違いha単位の大農業地帯のため、低いコストで沢山栽培できるという大きな可能性を感じることができた。今回興味を示して頂いた方はすべて日系の生産者ばかりなので、信頼性が高いところが大きなメリットでもある。
- また最終日に、サンパウロ近郊にある程度の規模でゆず栽培をしているブラジル農家が存在している(FC Frutas)ことがわかり、ゆずの苗を販売している情報もいただいた。

パルサー・インターナショナル

- 今回の交流プログラムに参加させていただき、弊社にとりまして、また、ブラジル国内における製造販社のトロピカル社にとりましても、販路拡大においてとても大きな転機となるように感じます。
- 以前にオルガミンを使用していたユーザーと再度繋がりが持て、訪問する機会をいただきました。また、オルガミンがブラジル国内で製造されていること、その製法が日本の伝統技術（発酵）を主なものとしているところも生産者の皆様に親しみをもっていただけるように思います。益々高品質な作物（糖度・果実大）をより安定的に大量に生産する意味においても、弊社資材利用のニーズは高いと感じます。
- 土壌環境面においても、弊社資材の元々のコンセプトであります《根の活力と根圈微生物の活性の考え方》が、生産者の皆様が現在注目し実施されております《山川プログラム》の土着菌活性、光合成細菌の活用の点からも非常に相性が良く、相乗効果が期待できると考えます。年々厳しくなる環境下において農業従事者の皆様の要望に応えられる資材としてその可能性を感じる事が出来た今回のプログラムでした。

(4) 日本企業と日系農業者等とのビジネスマッチング

我が国の食料安全保障の確保及び農林水産物・食品の輸出促進の観点から、我が国の農林水産業・食産業関係者等と日系農業者等とのビジネスマッチング等を以下のとおり実施した。

- ①農林水産業・食産業分野における日・中南米産学官交流のための招へい事業
- ②ビジネス交流の実績調査

(4)① 農林水産業・食産業分野における日・中南米産学官交流のための招へい事業

日系人社会に関わりのある農業・食産業関係者等（直接農業に従事する者に限らない）を中南米各国から5社招へいした。内容は、招へい事業参加者と日本の農林水産業・食産業分野関係企業、公的機関等との交流を図るものとし、参加する日本企業・公的機関は招へい事業参加者の関心に合わせて選定した。

項目＼月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(4) 日本企業と日系農業者等とのビジネスマッチング		内容説明	△	募集選考		派遣準備		日・中南米産学官交流		実績調査	

a. 募集方法

募集要項を日本語・ポルトガル語・スペイン語の3か国語で作成し、事業ウェブサイト上に掲載した。日系農業者訪日技術研修と同様に、募集は7月9日の第1回日系農業者等連携強化会議から開始し、8月25日に締め切った。提出書類は応募フォームと想定する日本企業とのビジネスプラン。ビジネスプランの作成のため、募集期間は研修事業よりも長く7週間とした。

b. 応募人数

5名の人数枠に対して合計で11名の応募があり、倍率は2.2倍であった（令和5年度は2倍程度）。応募者の内訳は11名中、年齢別で20代：1名、30代：5名、40代：2名、50代：3名、世代別では1世：1名、2世：4名、3世：3名、非日系：3名であった。国別は下表のとおり。大半が農業者・農業コンサルタント・農協関係者などの農業関係者であったが、農業関係企業・研究者・大学生などからの応募もあった。

人数枠	応募数	ブラジル	アルゼンチン	パラグアイ	ボリビア	ペルー	コロンビア	メキシコ
5名	11名	6名	0名	0名	1名	3名	0名	1名

c. 参加者の選考

- 今年度は中南米の食品バイヤー側と限定し、すでに日本食品の輸入経験を有する企業を優先した。
- 応募者多数であったため、一次評価と二次評価の二段階で選考を実施した。一次評価は書類審査とし、事業実績や志望動機、ビジネスプランの内容で評価した。応募書類の不備があった1名を除く、計19名に対して二次評価の面接を実施した。面接では、ビジネス状況や本気度を口頭で確認した。
- 評価基準は、1.活動内容（実効性・裁量）や2.目的意識（志望動機、ビジネス形式、ビジネスプランの明確さ、ビジネス規模、訪問計画）、3.その他（商談対応力、コミュニケーション能力）の3つの観点から30点満点で設定し、評価結果を点数化した。評価においては、ビジネスへ結び付く可能性・即時性を重視した。最終的に農林水産省との協議の上で産学官交流参加者を決定し、9月6日までに通知した。

1) 基本情報

日程	令和6年11月16日～12月1日（16日間）
場所	東京都、千葉県
参加者	5名（ブラジル4名、ペルー1名）

内容	<ul style="list-style-type: none"> - 日本食輸入について明確なビジネスプランを有する人が、そのビジネス実現のため日本企業や公的機関との商談・調査を行う（展示会、企業）。 - フードテック Week 東京および日本の食品輸出 EXPO（食品関連展示会）の訪問、産学官交流会（東京）、個別の商談を通して、マーケットリサーチを行い、日本の農業・食産業関係企業、公的機関等との交流を図る。
----	--

2) 参加者

No.	性別・年代	国	組織	業務
1	男性 50代	ブラジル	ゼンダイ社	営業部長
2	男性 30代	ブラジル	ヤマト商事	社長
3	男性 40代	ブラジル	ニッポンベビーダス社	共同経営者
4	男性 40代	ブラジル	パラナトレーディング社	社長
5	男性 50代	ペルー	エドグループ	社長（Edo Sushi Bar 部門）

3) 参加者ビジネスプラン

①ゼンダイ社（ブラジル） - 冷凍・乾燥された魚介類や冷凍野菜（枝豆）の調査 - 魚介類・小豆・果物等の缶詰の調査 - 米菓、大福、キャンディ等の菓子類、調味料、乾麺の新規商品の調査	
②ヤマト商事（ブラジル） - 既存顧客に高級和食レストランが多いことから、ホタテやいくら等の海産物の輸入 - 廉価内作業自動化機械（業務用野菜・チャーシュースライサー等）の調査	
③ニッポンベビーダス社（ブラジル） - 日本酒（テトラパック）、焼酎（費用対効果の高いもの）、ジン（日本ウイスキーと同等の品質・価格）、ウイスキー等 - 缶詰（サバ、さくらんぼ） - 漬物（十分な賞味期限のあるもの）	
④パラナトレーディング社（ブラジル） - より高品質な純日本製品をブラジルに輸入 - 菓子類、麺類、缶飲料、ドライ野菜等の調査 - 日本へ食品・飲料の輸出（豆、タピオカ、菓子類、ジュース、ココナッツウォーター、粉類等）	
⑤エドグループ（ペルー） - 菓子類、ラーメン、お茶、缶入り飲料（酒類含む）の調査 - よりシェルフライフの長い商品を取り扱う - 卷き寿司、おにぎりのロボットメーカー（機械）	

4) 日程

日程（共通）

日数	日にち	曜	内容	場所
1	2024/11/16	土	中南米出発	
2	2024/11/17	日	機内	
3	2024/11/18	月	日本到着	東京
4	2024/11/19	火	オリエンテーション	東京
5	2024/11/20	水	フードテック Week 東京（幕張メッセ）	東京
6	2024/11/21	木	各自商談・市場調査	東京
7	2024/11/22	金	各自商談・市場調査	東京
8	2024/11/23	土	各自商談・市場調査	東京
9	2024/11/24	日	各自商談・市場調査	東京
10	2024/11/25	月	各自商談・市場調査	東京
11	2024/11/26	火	企業商談会（中南米ビジネス産学官交流会）	東京
12	2024/11/27	水	日本の食品輸出 EXPO（幕張メッセ）	東京
13	2024/11/28	木	各自商談・市場調査	東京

14	2024/11/29	金	成果報告・総括	東京
15	2024/11/30	土	日本出発	
16	2024/11/01	日	中南米帰着	



参加者とパートナー企業同士での商談



個別の企業訪問



米の食べ比べ



オンラインでの商談会



個別の企業訪問

日程（各自行動）

①ゼンダイ社（ブラジル）

日数	日にち	曜	内容	場所
5	2024/11/20	水	フードテック Week 東京（幕張メッセ）	千葉
6	2024/11/21	木	キューピー株式会社	東京
7	2024/11/22	金	大塚製薬株式会社、有限会社ワールドリンクス	東京
8	2024/11/23	土	有限会社ワールドリンクス	埼玉
9	2024/11/24	日	休日	東京
10	2024/11/25	月	市場観察	埼玉
11	2024/11/26	火	産学官交流会	東京
12	2024/11/27	水	日本の食品輸出 EXPO（幕張メッセ）	千葉
13	2024/11/28	木	市場観察	埼玉

②ヤマト商事（ブラジル）

日数	日にち	曜	内容	場所
5	2024/11/20	水	フードテック Week 東京（幕張メッセ）	千葉
6	2024/11/21	木	株式会社高山、オーケー食品工業、ひかり味噌株式会社	東京
7	2024/11/22	金	朝日酒株式会社	新潟
8	2024/11/23	土	休日	東京
9	2024/11/24	日	休日	東京
10	2024/11/25	月	シマダヤ株式会社、丸京製菓株式会社	東京
11	2024/11/26	火	産学官交流会	東京
12	2024/11/27	水	日本の食品輸出 EXPO（幕張メッセ）	千葉
13	2024/11/28	木	サンライズ貿易株式会社	神奈川

③ニッポンベビーダス社（ブラジル）

日数	日にち	曜	内容	場所
5	2024/11/20	水	フードテック Week 東京（幕張メッセ）	千葉
6	2024/11/21	木	福島県へ移動、笛の川酒造	福島
7	2024/11/22	金	大和川酒造	福島
8	2024/11/23	土	サンライズ貿易株式会社	神奈川

9	2024/11/24	日	株式会社マツザキ、市場視察	埼玉
10	2024/11/25	月	合同酒精株式会社	東京
11	2024/11/26	火	産学官交流会	東京
12	2024/11/27	水	富永貿易株式会社、日本の食品輸出 EXPO（幕張メッセ）	東京・千葉
13	2024/11/28	木	日本の食品輸出 EXPO（幕張メッセ）	千葉

④パラナトーレーディング社（ブラジル）

日数	日にち	曜	内容	場所
4	2024/11/19	火	株式会社マルタイ	東京
5	2024/11/20	水	フードテック Week 東京（幕張メッセ）	千葉
6	2024/11/21	木	市場視察	東京
7	2024/11/22	金	Asvel 株式会社、名古屋へ移動	東京
8	2024/11/23	土	株式会社アイビーカンパニー（名古屋）	愛知
9	2024/11/24	日	株式会社アイビーカンパニー（名古屋）、静岡へ移動	愛知
10	2024/11/25	月	株式会社アイビーカンパニー（浜松）、東京へ移動	静岡
11	2024/11/26	火	産学官交流会	東京
12	2024/11/27	水	日本の食品輸出 EXPO（幕張メッセ）	千葉
13	2024/11/28	木	既存のパートナー（商社）との会議	東京

⑤エドグループ（ペルー）

日数	日にち	曜	内容	場所
4	2024/11/19	火	株式会社マルタイ	東京
5	2024/11/20	水	フードテック Week 東京（幕張メッセ）	千葉
6	2024/11/21	木	株式会社悠雅堂、株式会社ダイショー	東京
7	2024/11/22	金	株式会社コンフィテーラ、鈴茂器工株式会社	東京
8	2024/11/23	土	休日	東京
9	2024/11/24	日	休日	東京
10	2024/11/25	月	株式会社イマイ、ハセガワ株式会社	東京・千葉
11	2024/11/26	火	産学官交流会	東京
12	2024/11/27	水	日本の食品輸出 EXPO（幕張メッセ）	千葉
13	2024/11/28	木	株式会社二ノ宮クリスタル、不二精機株式会社	東京

5) 中南米ビジネス産学官交流会

来日した中南米事業者 5 名と日本の産学官の交流のため、中南米ビジネス産学官交流会「日本食」を東京で開催した。

日程	令和6年11月26日（火）10:00-17:30
場所	ビジョンセンター東京虎ノ門5階504号室
参加者	- 日本企業26社 - 中南米事業者5社
備考	- 応募企業が多数であったため、開催時間を午後のみではなく、午前（10:00-13:30）と午後（14:00-17:30）のセッションに分けて開催。 - 中南米への輸出相談窓口（World Trade Food & Beverage社）、中南米展開相談窓口（国際協力機構JICA）を設置。

日本企業

No.	企業名	No.	企業名
1	石丸製麺株式会社	16	ジャパンフード株式会社
2	マルヤマ食品株式会社	17	株式会社矢島園
3	株式会社ダイショー	18	クラタ食品有限会社
4	株式会社南山園	19	株式会社海外需要開拓支援機構
5	ヴォークストレーディング	20	株式会社アジアンマーケット企画
6	アートナップ株式会社	21	開柳堂土屋商店
7	有限会社キヨウダイジャパン	22	鎌田醤油株式会社
8	株式会社ウニードス	23	株式会社いまる井川商店
9	株式会社悠雅堂	24	信金中央金庫
10	株式会社はくばく	25	浅舞酒造株式会社
11	株式会社グローバルフィッシュ	26	ブラジル銀行東京支店
12	株式会社ヤマモトカジノ	27	ASVEL株式会社※
13	株式会社前川インターテック	28	株式会社マルタイ※